

## 坪井誠太郎と国立科学博物館 Seitaro Tsuboi and the National Museum of Nature and Science

栃内 文彦<sup>1\*</sup>  
TOCHINAI, Fumihiko<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 金沢工業大学  
<sup>1</sup> Kanazawa Institute of Technology

発表者は、2010年から東京大学大学院情報学環社会情報研究資料センターに収められている地質学者 坪井誠太郎 (1893-1986年)に関する資料(以下、「誠太郎資料」)の概要調査を行ってきた<sup>1)</sup>。「誠太郎資料」は情報学環図書室書庫と別の建物の2箇所に分けて置かれていたが、後者の資料が様々な事情により2014年12月、国立科学博物館(以下、「科博」)に移転(寄贈)された。

坪井は、1939年から45年にかけて科博(当時は東京科学博物館)の館長を務め、第二次世界大戦のさ中において、標本や資料の保護に尽力した。また、館長職を退いた後も、科博に思いを寄せていた。誠太郎資料の中には、これらを裏付ける資料が含まれている。

本発表では、坪井と科博の関わりについて、上記資料をひも解きながら具体的に論じてみたい。

### 注

<sup>1)</sup> これまでの調査の概要などは、例えば以下を参照。栃内文彦：「坪井誠太郎資料」の意義 -同資料の概要調査から得られた知見-」、『東京大学大学院情報学環社会情報研究資料センターニュース』23号, 2013年3月, pp. 1-6, 栃内文彦：「坪井誠太郎資料」の科学史研究における重要性 -坪井の偏光顕微鏡研究に対する評価の検討-」、『センターニュース』24号, 2014年3月, pp. 1-5, 栃内文彦：「坪井誠太郎資料」の概要調査を終えて」、『センターニュース』25号, 2015年3月, pp. 1-5, 栃内文彦：「地球科学史資料のアーカイブ化：坪井誠太郎資料調査からの知見より」(JpGU 2012年大会で発表, 2012年5月20日), 栃内文彦：「坪井誠太郎資料調査から得られた知見：遺された手紙類を読み解く」(JpGU 2014年大会で発表, 2014年4月29日)。なお、2012年度から14年度にかけての調査, 研究と、それに基づく報告, 発表は、JSPS 科研費(課題番号 24650583)の助成を受けて行われている。

キーワード: 科学史, 日本地質学史, 坪井誠太郎, 国立科学博物館, アーカイブ

Keywords: History of Science, History of Geology in Japan, Seitaro Tsuboi, National Museum of Nature and Science, Archive